



# Safe Crop Project News



No.4 2017年5月17日発行

「ベトナム北部地域における安全作物の信頼性向上プロジェクト（2016年～2021年）」は、北部地域2市11省において、「Basic GAP (Good Agricultural Practices)」を始めとする安全作物栽培の技術規範に沿った生産活動、消費者の安全野菜への信頼醸成、及び、多様なサプライ・チェーンの構築を支援することで、対象地域における安全作物栽培の振興を目指します。

本号では、畑作物栽培の新井専門家による、対象地域の営農状況に関する観察結果を報告させていただきます。

## 自給農業から商品作物栽培への転換

対象地の農業は概ね伝統的な農業、農地統合による農業、先進組合・会社経営農業に分けられるようだ。以下3タイプの営農や作物の現況、課題について観察結果である。

### ハノイ近郊の伝統農業

ハノイから車で2時間ほど南東に向かうと、対象省の一つフンエン省がある。ハノイ近郊である。同地域の農業は、これまで私の40年を超える農業経験を振り返っても類を見ない特徴的な農業であった。一戸当たり10アールにも満たない圃場であるが、一本の畝の上に何種類もの作物を同時に栽培している。除草は完璧、虫食いも少ない。狭小農地での超集約型の農業である。



べた掛けや灌漑資材も使う葉菜中心の超集約近郊農業 (Yen Phu 組合、Hung Yen 省、2016.12)

このような小規模農家でも、それぞれの畑に生産物の集荷に回ってくる卸業者がいる。卸業者は、バイクで取引先の農家を回って作物を集め、ごく近くのこれも得意先の小売店に卸しているようだ。小売店

は、これもお得意様の消費者がいて地域経済を形成している。長年、北部ベトナム、ハノイ近郊で続く農業生産と流通システムのような。

連続的な栽培であるが作型は大きく冬、春、夏の三毛作に分けられる。栽培されている品種は、極めて栽培期間の短い品種が多いようだ。堆肥の施用はまれで、肥料は元肥（種まきや移植前に与える肥料）と単肥の連続追肥（生育に応じて追加で与える肥料）による栽培である。農業の基本である土づくりや健苗がこのタイプの農業の改善、収益性向上には必須と考えている。

### 農地統合による農業

政府により、狭小な戸別農地を統合して農業技術の改善、収量増、効率化が図られている。統合した農地の経営は、企業に加え、新型組合と呼ばれる組合が担っているケースも多い。このような農地統合は、近年始まったようで圃場面積は広く、ハウスや網室、灌漑設備なども導入されている。種々の作物の栽培面積も伝統農業より広く、産地が形成されている。

上記のような営農を行う組合は、ハノイの大規模小売店や工場などの食堂向けに作物を出荷している。しかし、栽培技術が追いついていない場合が多く、連作による病害虫の発生も観察される。接ぎ木や輪作の導入も限られており、圃場の一部で育苗しているキャベツの苗木は、活着に時間を要する徒長苗である。集出荷施設の利用も限られており、需要に応じた生産を叶える技術改善が必要となっている。

### 先進組合・会社経営農業

3つめがベトナム北部の農業の将来モデルともなる先進組合、会社方式の農業である。訪問した先の一つに、日本で習得した技術を元に経営する農業法人がある。周囲の農家とは一線を画す播種、育苗、栽培技術を有し、使用する農業資材も周囲の農家とは異なる。12-1月出荷のトマト栽培は、周囲の農家は露地、無マルチであるが、ハウス、シルバーマルチである。

360haの冬ニンジンの大産地を要する組合もある。同産地は砂壤土（土壌に含まれる粘土が12.5~25%）で地味が良くニンジン生産に適しているので産地が形成されたい。しかし、戸別の栽培面積は平均0.2haであり、播種後の降雨による種子の流亡や初期生育の不揃いによる品質低下等の課題がある。今後、適切な資材の導入や栽培改善を通じ栽培技術の平準化、作物の揃いや品質向上を目指していく。



360haに広がる Duc Chinh 組合ニンジン産地。コマ、根菜、ウリ科の年3作。(ハイズオン省、2016.12)

## JCC (Joint Coordinating Committee) 開催

4月17日に、農業農村開発省(MARD)国際協力局 Minh 副局長を議長に、関係者間でプロジェクトの全体方針について協議する合同調整委員会 (JCC) を開催しました。会議ではパイロット省3省 (ハイズオン省、ハナム省、フンエン省) における対象農家グループの選定、PDM(Project Design Matrix)の改訂やパイロットプロジェクトの実施計画等について協議が為され、JCC 参加

者により承認されました。今後プロジェクトでは、JCC によって承認されたパイロットプロジェクト活動を本格的に始動して行きます。



プロジェクト形成の背景について発表する作物生産局 Dinh 副局長

## TOF(Training of Farmers) for Marketing

前号のTOT(Training of Trainers)の報告に引き続き、今号では、3~4月にかけて各パイロット省で実施された農家向けマーケティング研修、TOF(Training of Farmers)の様をお伝えします。

TOFは、パイロット省のハナム省、フンエン省、ハイズオン省において、パイロット活動の対象グループである7つの組合・農業法人の「マーケティング能力強化」を目的として行われました。参加者は、組合・農業法人の幹部、マーケティング担当者、農家です。加えて、パイロット活動の対象外で、活発な活動をしている組合のメンバーも参加しました。

研修では、TOTを受講したDARD職員による安全野菜の市場動向に関する講義や、買い手との契約・交渉ポイントの説明が行われました。また、グループワークでSWOT(Strengths 強み-Weaknesses 弱み-Opportunities 機会-Threats 脅威)分析を行い、その結果に基づき潜在顧客の選定を行いました。SWOT分析

は、各々の強みをどのように事業戦略に活かすか、弱みをどのように克服するかを話し合い、全体で意見交換をしました。参加者からは「このように組織の特徴を考えるのは初めてで、参考になった」という声があり、マーケティングへの関心の高さを感じました。

今後プロジェクトは、各組織の状況に合わせたマーケティング支援を行い、生産者とバイヤーのマッチングを進めていきます。



グループワークで出た意見について議論する参加者

## ジェンダー平等の視点で取り組むパイロット活動

女性の社会進出が進んでいると言われているベトナムですが(2013年MasterCard Worldwideが発表した「女性の社会進出度調査」の結果によると、ベトナムはアジア・太平洋地域14ヶ国中5位、日本は12位。)、農村での女性の置かれている状況はどのような様子なのでしょう。

プロジェクトではまず初めに、安全作物生産に係る活動における男女の役割と責任を明らかにし、ジェンダー問題を特定するために、ジェンダー調査を行いました。調査の結果、女性は農業活動と、家事労働の殆ど全てを担っており、この二重労働が研修やプロジェクト活動へ積極的に取り組めない主な原因であることがわかりました。このような背景から、本プロジ



Ha Vi 組合 (ハナム省) における女性が参加しやすい環境づくりについての話し合いの様

エクトにおいては、ジェンダー平等の視点を反映したパイロット活動が計画されています。具体的には、グループごとに女性がパイロット活動に参加しやすい環境づくりについて話し合い、「活動時間は女性が家事で忙しくない午前8時-10時または午後2時-4時の間に実施する」ことや、家庭内の情報の不均衡をなくするために、「どちらかがトレーニングに参加した際はその結果を配偶者に伝える」、「栽培履歴を記録した際には夫婦がお互いにチェックしあう」、「堆肥作りには夫婦で参加する」などの約束事を、決めていきます。話し合いにおいては、男女両方から積極的な意見が上がってきています。

今後は、活動ごとに約束事が守られているか確認すると共に、グループで話し合っただけの約束事によって、女性がパイロット活動に積極的に参加できるようになっているか、その結果活動のパフォーマンスがよくなっているかをモニタリングしていきます。まだまだ駆け出しですが、プロジェクトを通じて、このようにジェンダー平等の視点を持って計画、実施、モニタリングしていくことを繰り返し、こうした活動が安全野菜の生産性向上にもつながるのだということに関係者が実感できるような取り組みにしていきたいと思ひます。

## JICAプロジェクトチームの紹介

畑作物栽培担当の新井司郎専門家(日本工営)の自己紹介です。大学卒業後、野菜の品種改良の道を求め、奈良の小さいけれど伝統があり、優良品種を持つ種苗会社に入社しました。35年ほど前の話ですが、種苗会社では、新品種の開発と、種子生産を担当しました。種苗会社では11年間、働かせていただきましたが、後半には、農協や県経済連、市場などと協力して産地形成を推進し、開発した新品種の栽培を支援する産地指導に従事しました。その種苗会社の経験を基に、本プロジェクトにも従事させていただいています。ベトナム北部の農業の特徴は、圃場の高い地下水位、低い肥沃度、小規模・戸別経営、多品目・少量・連続栽培などが特徴です。とっても上手な家庭菜園のようだ!と思ひました。しかし、日本では堆肥のない農業は無いのですが、こちらでは堆肥施用はほぼ皆無ですし、病害虫も多く、マルチやトンネルなどの資材利用も進まず、課題の多い農業です。

政府は、安全野菜を振興するためのシステム整備やネットハウスを振興して努力を重ねています。しかし、現状ではそれらの努力は功を奏しているとは言えず、虫食い作物が安全作物と認識される始末です。資材の導入や、農薬、肥料の正しい使い方を、戸別経営の産地化を通じて普及し、量販店や加工、レストランなどの需要に結び付け、儲かる安全野菜の生産を推進する所存です。



ハノイ近郊のレタス栽培を支援する農家さん(写真中央/長野県川上村)に話を聞きました(右端筆者)

### JICAプロジェクト事務所

住所: Room 201, Department of Crop Production, Ministry of Agriculture and Rural Development,  
2 Ngoc Ha Str., Ba Dinh Dist., Hanoi, Vietnam  
Tel/Fax: +84 3244 4373

### 皆様のご意見・ご感想をお待ちしております